

令和4年度 学校評価報告書(自己評価書・学校関係者評価書)

令和5年2月日作成

中期目標	重点努力目標(評価項目)	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 (★学校関係者評価を受けて)
魅力ある教育活動に努め、生徒の自ら学ぶ意欲と主体的な態度を育てる。	授業改善	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 新しい生活様式にも慣れ、生徒は元気に学校生活を送ることができている。 ICT機器の活用について、学校体制で活用方法を工夫している。生徒、職員ともに昨年に続き達成感が高く、保護者にも徐々に伝わっている。 一人調べの時間を確保し、全体発表をする学習活動が定着してきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> オンラインも定着し、先生たちの負担もなくなったように思える。質の向上(黒板の見やすさ、資料の共有など)を期待したい。 家庭での学習でタブレットを子どもがどのように使用しているか知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ★タブレットの有効活用をよりいっそう進めていけるような研修の場や情報交換の場を設ける。 オンライン授業について、見やすさ、参加の仕方などの工夫などをしていく。 家庭での使用に実態について、しっかりと把握し、必要に応じて家庭へも協力を求めていく。
	学習指導要領の趣旨に応じた授業実践を行う。	A					
諸活動を通して、思いやりの心、自らを律する心、感謝する心、挑戦する心を育てる。	人間関係づくり	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートと面談による生徒の不安や悩みの解消を図ってきた。更に、生徒の悩みや困りごとは複雑になっていることから、SCを含めた相談活動を行っている。また、生活日記による一人一人の生徒との対話をより大切にしたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 親の要望を学校にどのように伝えるのがよいか。 アンケートの形式を工夫し、親の気持ちをくみとれるようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ★学校アンケートに自由記載欄を設けたい。 生徒・保護者からの要求にもっとこたえられるように、情報を得るだけでなく、職員の対応もはやくなるよう学年・学校体制で対応していきたい。
生徒一人一人の持ち味を生かし、自らを高めるとともに社会集団に貢献しようとする意欲と態度を育成する。	生徒活動の活性化	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 係活動、委員会活動については、昨年度以上に充実して行われていた。また、ボランティア活動も積極的に行われるようになっていく。 生徒のがんばりを紹介したり、成長を確認できたりする活動をもっと工夫していきたい。 感染症対策をしたうえで活動については、保護者や生徒にも理解していただいている。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 体力のない子、不器用な子、運動が楽しくない子の増加。そのための対応をしてほしい。勉強をするのにも、体力は必要である。 コロナ禍での中止は仕方がない。しかし、その後の復活はどの程度を期待してよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ★体育の授業、部活動において、技能の習得だけでなく、もって体力をつけることを意識したい。 ★コロナ禍で中止、縮小した活動について、今後どうあるべきかを検討していく。 集会や各種の通信などで、ボランティア活動、実行委員会での活動や日頃の努力について認めていく場面を増やしていく。
	行事・諸活動・会議の見直しや精選を行い、よりよい教育活動を目指す。	A					
	事務作業の効率化、情報の共有化を高められる体制づくりを進める。	B					
教育諸条件の整備と改善を図り、安心して学べる教育環境づくりに努める。	多忙化解消に関わる業務改善	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 各行事は、活動内容を工夫し、内容を精選し、短縮しているが、その中でも精いっぱい取り組むことができた。 校務処理におけるICTの活用場面が増え、生徒に向き合う時間や職員との会話の時間が増えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 業務の改善は校内の教職員ですすめていくのがよい。 働き方改革によって、生徒と先生間の時間を増やすことにつなげていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ★教育の質の向上のための働き方改革を進めていく。生徒との時間を増やしていきたい。 個人裁量日、ノー残業デーなどの趣旨を保護者や生徒に理解していただく機会を設ける。
	教職員相互の信頼と協力体制を基盤とし、創意と活力に満ちた学校教育の創造に努める。	教師の力量向上と連携・協力	A	A	<ul style="list-style-type: none"> タブレットを活用し、オンライン授業を受けることができた。ただ、家庭での使い方について、保護者は心配なこともあるようで、学習用具であることを再確認させたい。 ふだんの授業のタブレット活用について、有効性を学校体制で研究している。 職員の研修会も定期的に行われている。その様子を保護者にも紹介していきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者として、子どもがタブレットを有効活用し、学習に取り組んでいるとは思えない家庭もあると聞いている。 家庭の使い方を年度初めに確認できる場面があれば、家庭でのコミュニケーションもよくなる家庭も増える。
保護者や地域との協力を強化し、健康で前向きな生活を支援する。	保護者・地域との協力体制強化	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 徐々にではあるが、地域と協力して活動する活動が見られるようになってきた。 学年学級通信やホームページによる学校の様子は家庭や地域への情報発信ができていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ホームページによる発信はよい独自のホームページはつくことは可能なのか? 体育祭、合唱コンクールへ地域住人の参加は可能か? 	<ul style="list-style-type: none"> ★ホームページの内容がよくなるように、扱う内容、紹介の仕方、見やすさなどを考えていく。 生徒が地域の行事にもっと参加するようにし、また、挨拶運動などに地域のかたも参加をよびかける。
	HP、学級学年通信を積極的に活用し、生徒の活動などの情報発信に努めている。	A					

【自己評価 A:十分に達成されている B:概ね達成されている C:あまり達成されていない D:ほとんど達成されていない】

【総合評価:自己評価をもとに上記のA・B・C・Dで評価】

【関係者評価 A:適切である B:概ね適切である C:あまり適切ではない D:適切とは言えない】